

# 東京都武蔵野地域におけるカミツキガメの繁殖

佐藤方博，神澤良子

特定非営利活動法人 生態工房  
180-0013 武蔵野市西久保 2-27-16-407  
phone&facsimile : 0422-52-1801  
http://www.eco-works.gr.jp/  
e-mail : sato@eco-works.gr.jp (佐藤)

## 目的

武蔵野地域におけるカミツキガメ *Chelydra serpentina* の生息および繁殖の状況を把握するために、情報の収集と整理を行った。

## 方法

1999 年～2004 年にかけて、井の頭恩賜公園、善福寺公園、光が丘公園においてカメ類の採集調査を行った際に確認されたカミツキガメの記録を整理した。玉川上水および三宝寺池において本種の幼体確認情報があったので関係者への聞き取りを行った。

## 結果

### [ 生息確認状況 ]

採集調査を行った井の頭恩賜公園、善福寺公園、光が丘公園においてカミツキガメの生息が確認された(図1)。幼体確認情報があった玉川上水および三宝寺池において聞き取りを行い、発見時の状況などを記録した。本調査によって得られたカミツキガメの全確認状況を表1に示した。

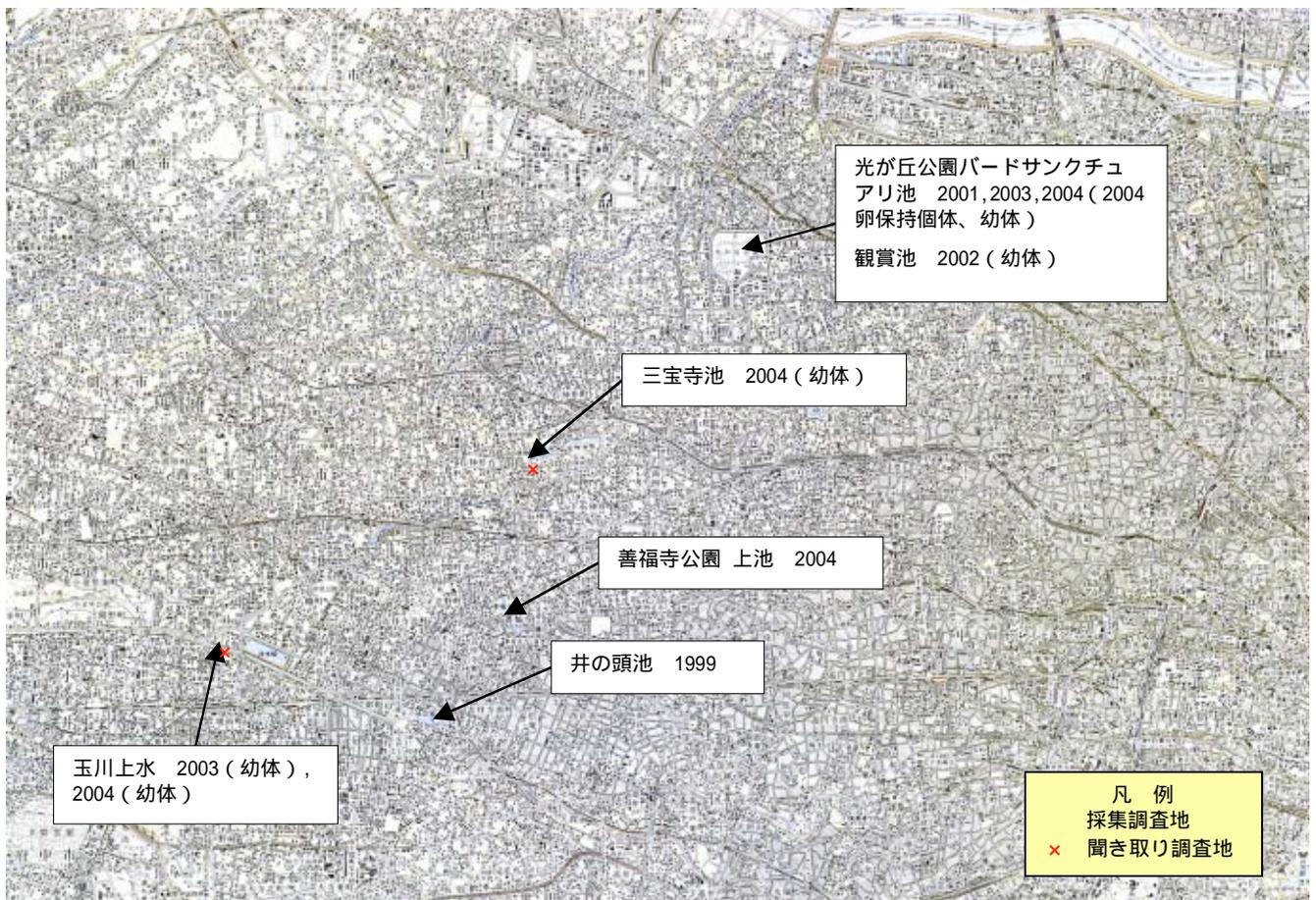


図1 調査地とカミツキガメの確認地，確認年

表 1 カミツキガメの確認状況

## 光が丘公園

確認年月	個体数	背甲長	個体備考	確認地	確認方法
2001年9月	1	114	溺死	バードサンクチュアリ池	張網
2002年12月	1	-	幼体	観賞池	目視 (たも網で採集)
2003年9月	1	178		バードサンクチュアリ池	張網
9月	1	179		バードサンクチュアリ池	張網
9月	1	185		バードサンクチュアリ池	張網
9月	1	190		バードサンクチュアリ池	張網
9月	1	195		バードサンクチュアリ池	張網
10月	1	158		バードサンクチュアリ池	張網
2004年6月	1	201		バードサンクチュアリ池	張網
6月	1	203	, 溺死		張網
7月	1	49	幼体	バードサンクチュアリ池	張網

## 石神井公園

確認年月	個体数	背甲長	個体備考	確認地	確認方法
2004年5月か6月	1	-	幼体	三宝寺池	目視 (手づかみ)

## 善福寺公園

確認年月	個体数	背甲長	個体備考	確認地	確認方法
2004年6月	1	169		上池	蟹かご

## 井の頭恩賜公園

確認年月	個体数	背甲長	個体備考	確認地	確認方法
1999年8月	1	263		井の頭池	蟹かご

## 玉川上水

確認年月	個体数	背甲長	個体備考	確認地	確認方法
2003年夏ごろ	1	-	幼体	武蔵野市境 うど橋付近	目視
2003年11月	24	-	幼体	武蔵野市境 うど橋付近	目視 (手づかみ)
2004年10月	1~2	-	幼体	武蔵野市境 桜橋付近	目視 (手づかみ)
秋ごろ	1	-	幼体 (死体)	武蔵野市境 うど橋付近	目視

## [ 繁殖確認状況 ]

採集調査を行った水域のうち、唯一光が丘公園バードサンクチュアリ池において複数の成体が採集された。生殖器官の発達具合を確認するために、2004年6月に採集された2個体を解剖したところ、兩個体の卵巣にはそれぞれ42個と22個の卵黄が確認された(表2)。7月には同池において幼体1個体が採集された。

このほか、繁殖に関わる情報があった水域について、関係者から聞き取りを行った。玉川上水では、水路に接している施設・民家等の敷地において、2003年および2004年に4件の幼体確認情報が得られた。三宝寺池では、池畔の木道脇の地上において、2004年に1件の幼体確認情報が得られた。

本種が確認された場所及び確認個体の写真を次頁に示した。

表 2 光が丘公園バードサンクチュアリ池で採集したカミツキガメの個体情報

個体	採集日	背甲長	性	卵数
a	2004年6月	201		22
b	2004年6月	203		42

[ 光が丘公園バードサンクチュアリ池 ]



カミツキガメ確認地



2004年に採集された成体



解剖状況



卵巣の状況



2004年に採集された幼体

[ 善福寺公園上池 ]



2004年に採集された成体

[ 石神井公園三宝寺池 ]



カミツキガメ確認地



2004年に採集された幼体

[ 井の頭恩賜公園井の頭池 ]



1999年に採集された成体

[ 玉川上水 ]



カミツキガメ確認地の周辺環境



2003年のカミツキガメ確認地



2004年に採集されたカミツキガメ幼体  
(井の頭自然文化園水生館にて展示)

## 考察

採集調査を行った井の頭池、善福寺池、光が丘公園バードサンクチュアリ池の3箇所のすべてにおいて本種の生息が確認された。井の頭池および善福寺池は、夏期を中心としてそれぞれ37日間と28日間調査を行ったが、確認数はそれぞれ1個体であった。井の頭池で調査を行ったのは、後述する本種の大量遺棄があったと考えられる時期よりも前であるため、現在の生息状況については不明である。少なくとも1999年の時点では、井の頭池における生息密度は低いものであったと推測される。善福寺池では、採集されたのは1個体であるが、この個体とは異なる大きさの2個体が撮影されている。生息密度は低いものと思われるが、確実に生息している。光が丘公園バードサンクチュアリ池においては、生息数は不明であるが、2003年から2004年にかけて成体が8個体採集されていることから、他の調査地よりも高い密度で生息していると考えられる。本種は水棲傾向が強いため、水中でのわな掛けをしなければ生息を確認するのが難しい。武蔵野地域にはまだ採集調査を行っていない水域がいくつか存在している（例えば三宝寺池・石神井池・富士見池・玉川上水）。今後調査水域が増えるにしたがって、本種の生息確認が増加していく可能性がある。

光が丘公園バードサンクチュアリ池は、採集調査を行った他の水域に比べて成体の採集数が多かった。バードサンクチュアリ池は、本種の雌雄が会って繁殖に至る危険性が他の水域よりも高い場所であると言える。実際に、成体2個体の卵巣から卵黄が、池からは幼体1個体を確認されていることから、すでに繁殖しているものと考えられる。

聞き取りの結果、玉川上水および三宝寺池において繁殖に関わる情報が得られた。玉川上水では2003年と2004年に、水路沿いにある施設・民家等の敷地において幼体を確認された。2003年の2例は、水路の土手の地表にいた幼体が、隣接している施設の敷地内に迷入していたところを採集されたものである。採集地点は、一般人が立ち入ることのできない施設の裏側であること、土の上に多数の幼体がいたことから、この場所で繁殖したものであると考えられる。2004年にも2例が確認された。秋ごろの確認例は、玉川上水に接している駐車場（2003年幼体発見地に隣接）において、すでに死亡している幼体1個体を小学生がいじっていたというものである。10月の確認例は、やはり玉川上水に接している民家の敷地において、幼体1~2個体を確認されたというものである。この民家は2003年の発見地とは水路と緑道で連続しており、距離は約350mである。2004年の2例も、2003年の発見地に近い玉川上水沿いであることから、この場所で繁殖した可能性が高いと考えられる。

三宝寺池では、2004年5月または6月に、池畔の木道脇の地表にいる幼体1個体が公園利用者によって採集された。当地で繁殖した可能性もあるが、発見地は人通りの多い散策路であり、人間がその場に幼体を遺棄した可能性も捨てきれない。引き続き本種の生息を監視する必要がある。

カミツキガメは2002（平成14）年の「東京都動物の愛護及び管理に関する条例」の改正によって「危険な動物（特定動物）」に定められた。これにより本種の飼育には特別な設備や費用が必要になったことから、すでに飼育されていた個体が野外へ遺棄されたと言われている。本種は武蔵野地域において、個体密度は低いと思われるものの、複数箇所の水域に生息していることが明らかになった。少なくとも2箇所の水域で繁殖が確認され、さらに1箇所でも繁殖している可能性がある。

これまでの繁殖確認件数から推測すると、現在は、野外に遺棄された本種がまだ繁殖を始めて間もない時期であり、生息数は決して多くはないものと思われる。本種が繁殖によって増加し始める前に、野外からできうる限り回収し、都市空間の中に残りわずかな生態系保全に努めることが望まれる。

## 謝辞

本稿をまとめるに当たっては大勢の方にご協力いただいた。井の頭自然文化園水生物館の荒井寛氏、東京大学大学院農学生命科学研究科の小林頼太氏、東京都動物愛護相談センターの高坂真一氏、武蔵野市立境保育園の田中氏、武蔵野市環境生活部の横田尚樹氏、古屋真氏、伊地知英信氏、川合ひろ子氏にはカミツキガメに関するさまざまな情報を教えていただいた。東京農工大学大学院環境毒性学研究室の渡邊泉氏ほか研究室の皆様には解剖に格段の便宜を図っていただいた。東京都西部公園緑地事務所、井の頭公園管理所、井の頭自然文化園、東京都東部公園緑地事務所、東京都公園協会東部支社の渡邊昇氏、善福寺公園管理所の若林所長ほか所員の皆様、光が丘公園管理所の村田所長ほか所員の皆様にはカメ類調査へのご理解の上に作業の便宜を図っていただいた。2004年度の採集調査は、Office WOLの長澤越子氏、水元ネイチャープロジェクトの郡司亮祐氏、東京環境工科専門学校の八重樫彩、小津源大紀、小林淳一の諸氏、東京農工大学野生動物研究会の李謙一氏ほかメンバー諸氏、日本大学生物資源科学部獣医学科の大井誠明氏に担っていただいた。記して感謝します。